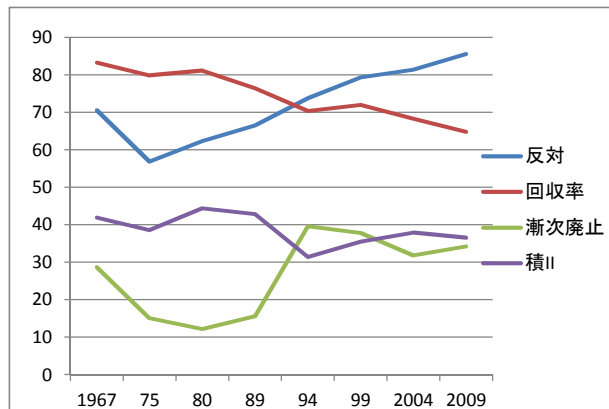
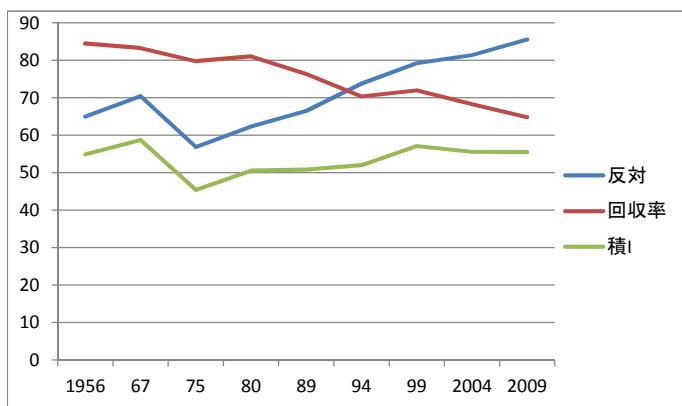


回収サンプルではなく、計画サンプル全体100%の中での廃止反対の率 計画サンプル全体の中での「現在も廃止反対」かつ「将来も廃止反対」の率

	反対	回収率	積I
1956	65	84.5	54.9
67	70.5	83.3	58.7
75	56.9	79.8	45.4
80	62.3	81.1	50.5
89	66.5	76.4	50.8
94	73.8	70.4	52.0
99	79.3	72	57.1
2004	81.4	68.3	55.6
2009	85.6	64.8	55.5

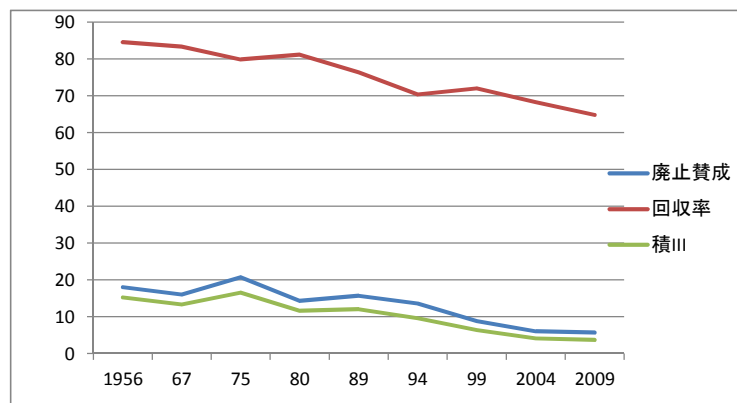
	反対	回収率	漸次廃止	積II
1967	70.5	83.3	28.7	41.9
75	56.9	79.8	15.1	38.5
80	62.3	81.1	12.2	44.4
89	66.5	76.4	15.6	42.9
94	73.8	70.4	39.6	31.4
99	79.3	72	37.8	35.5
2004	81.4	68.3	31.8	37.9
2009	85.6	64.8	34.2	36.5



2014年8月27日  
吉野諒三

計画サンプル全体100%の中での「廃止賛成」の率

	廃止賛成	回収率	積III
1956	18	84.5	15.2
67	16	83.3	13.3
75	20.7	79.8	16.5
80	14.3	81.1	11.6
89	15.7	76.4	12.0
94	13.6	70.4	9.6
99	8.8	72	6.3
2004	6	68.3	4.1
2009	5.7	64.8	3.7



どんな場合も  
同じバイアスでも賛成は減っている

結論

「8割反対」の数字の独り歩きはmisleadingであるが、構造的に過半数が反対なのは継続して安定しており、現在も将来も、3割から4割の人々が廃止反対であるのは概ね安定している(未回収層を考えると、これ以上の数字となる)。他方、回収率、質問表現の変化を考慮しても、「完全に廃止賛成」は減ってきている。(ただし、仮に未回収層で急激に「完全に廃止賛成」が増加している可能性があれば、この最後の部分の結論だけは検討を要す。)